

ベネズエラ・マンスリー政治情報（平成26年8月）

【内政】

1 政府構造改革

18日、閣議終了後、アレアサ副大統領は、自身を含め全閣僚がマドゥーロ大統領の政府構造改革のため辞表を提出した旨発表。内閣改造が噂される中、政治学者などからは、効率性向上のための閣僚数削減の必要性が指摘され、また、野党からは、社会・経済分野におけるエキスパートの入閣が不可欠との指摘がなされた。

2 野党連合（MUD）の動き

（1）ラモン・ギジェルモ・アベレド野党連合（MUD）代表の辞任（7月30日）を受け、11日、MUD所属の主要政党及びマリア・コリーナ・マチャド前国会議員等が一堂に会し、MUDの今後の政治戦略、組織のあり方等について協議した。右会合では、MUD内部での意見・見解の相違解消が最優先課題であるとの意見が大半を占めた。

（2）13日、上述協議結果を受け、MUDを構成する25政党の代表らが総会を開き、全会一致で、野党連合存続のための7つの戦略方針書が承認された。右指針の主な内容は、「政治囚釈放に向けた戦いの継続」、「人権擁護」、「司法、立法、行政等公権力分立の実現」、「経済懸案事項の解決に向けた貢献」等。

（3）26日、MUDを構成する27政党による会合開催。G7（得票数の多い7政党）制度の廃止、今後は全体会合で組織としての決定を行うこと、執行部が任命・解任するMUD代表職の維持、対外発表内容毎の公式報道官任命の方針、無所属及びMUD執行部役員により構成される顧問理事会（現状分析及び解決策提示を行う）の設置が決定された。

3 政府関係組織人事異動

（1）12日付（社会経済の権利保護国家監督局（SUNDDE）局長）

旧：ダンテ・ラファエル・リバス・キハーダ（Dante Rafael Rivas Quijada）商業大臣

新：アンドレス・エロイ・メンデス（Andres Eloy Mendez）国会議員

（2）14日付（国家貿易機関（CENCOEX）副長官）

旧：ホセ・カーン（Jose Khan）中銀理事（CENCOEX 理事職続投）

新：ウィリアム・カニャス（William Canas）CENCOEX 理事兼中銀理事

4 スーパーマーケット指紋認証システム導入

23日、メンデス SUNDDE 局長は、スーパーマーケットにおける指紋認証システム導入により、買い占め及びレジにおける長蛇の列を解消する方針を発表。本件に関し、野党各党、カプリレス・ミランダ州知事、経済界等は、消費の管理につながるとして強く

反発している。30日には、COPEI が中心となって反政府デモ行進を実施。

5 国家貿易機関（CENCOEX）の所管

25日付官報にて、国家貿易機関（CENCOEX）の所管が経済担当副大統領から副大統領府に変更された。

6 5つの委員会設置（PSUV党内）

26日、マドゥーロ大統領（PSUV党首）が主催したPSUV集会にて、第3回党大会にて設置が決まった5つの委員会委員長の宣誓式が行われた。5つの委員会及び各委員長氏名は以下のとおり。

（1）社会主義能力開発委員会（マリア・クリスティーナ・イグレシアス：元労働・社会保障大臣）

（2）広報・先導・通信委員会（エルネスト・ビジェガス：カラカス首都区再建大臣）

（3）国民との団結委員会（フレディ・ベルナル：元リベルタドル市長）

（4）経済戦争対策委員会（アンドレス・エロイ・メンデス：SUNDDE局長）

（5）特別会合組織委員会（ロドリゴ・カベサス：エコノミスト）

7 コリーナ・マチャド前国会議員主導の国民議会

12日、コリーナ・マチャド前国会議員が主導する国民議会がエル・アティージョ市にて開催され、ボトムアップによる国民・全セクターの結びつき強化、市民レベルによる政府との対峙、及び全国での抜本的変革等と呼びかけた。マチャド氏は、10月に再び国民議会を開催する予定。

8 レオポルド・ロペス大衆意志党党首裁判審問

放火、器物損壊、扇動、騒乱罪容疑により起訴されている同氏の審問が13日及び28日に行われたが、弁護側の主張は依然認められず、次回審問は9月10日を予定している。

【外交】

1 マドゥーロ大統領の外遊

（1）1日、マドゥーロ大統領はコロンビア・カルタヘナにてサントス・コロンビア大統領と会談し、両国間の投資・エネルギー・社会分野での協力プロジェクトについて見直しを行い、経済分野の協力関係について話し合う作業部会設置で合意。また、両国間密輸問題についても協議し、マドゥーロ大統領は、会談後、両国間での密輸に対処するために、パドリーノ・ロペス当国国軍作戦戦略指令部司令官を二国間密輸対策指令部中枢調整官として任命した。

(2) 19日、マドゥーロ大統領はキューバを訪問し、フィデル・カストロ・キューバ前国家評議会議長と会談。フィデル・カストロは、ベネズエラ政府によるパレスチナへの支援を評価、原油関連問題についても話し合われた。

2 コロンビアとの国境夜間封鎖

(1) 11日より30日間の予定で、ベネズエラ・コロンビア国境2200キロメートルにわたり、密輸対策のためベネズエラ国軍による夜間閉鎖(22時～5時)措置が実施され、政府当局は、国境沿いにおける密輸取り締まりを継続、連日、成果を公表している。

(2) 右措置に関し、13日、オルギン・コロンビア外相は、ベネズエラ側による密輸対策のための夜間国境閉鎖がベネズエラの一方的な措置であり、最良の方策とは考えていない旨表明した。

(3) 22日、マドゥーロ大統領は、密輸問題に対処するため、基礎食料品及び基礎衛生用品等の輸出を禁止すると発表。

3 ハウア外相の外遊(イラン、エジプト)

(1) 4日、非同盟諸国運動パレスチナ問題委員会大臣会議出席のためイランのテヘランを訪問し、イスラエルの非人道行為を批難。国連決議によるイスラエルによる不法占拠と人権侵害を中止させる決議採択の必要性を訴えた。また、同日、ローハニ・イラン大統領と会談し二国間協力につき協議した。

(2) 6日、サーメハ・シュクリ・エジプト外相と会談(於カイロ)し、両国関係深化の意向を表明すると共に、ガザ地区における犠牲者(負傷者)へのベネズエラからの人道支援物資送付のためエジプト政府による協力を求めた。同日、パレスチナ人負傷者が手当を受けている病院を訪問した。

4 ハウア外相とマクリニー米臨時代理大使の会合

28日、ハウア外相はリー・マクリニー(Lee McCleeny)米臨時代理大使を外務省に迎え、話し合いを行った。協議内容については公開されず。

5 マーリキー・パレスチナ外務庁長官の当国訪問

(1) 12-13日、マーリキー・パレスチナ外務庁長官は当地を訪問。当国発パレスチナ向け人道支援物資12トンを積んだ軍用機見送り、ディオスダド・カベージョ国会議長との会談(ベネズエラ・パレスチナ友好議連立ち上げ決定)、イスラエルからのガザ地区侵攻事案に関する両国連帯の表明、マドゥーロ大統領との会談等行った。

6 マリ・スポーツ大臣の当国訪問

25日、Housseini Amion マリ・スポーツ大臣が当国を訪問し、レイナルド・ボリバル・アフリカ担当外務次官と会合し二国間関係について協議。27日（水）には、カロルス・ウィマー国会議員と会談、二国間友好関係強化への関心が示された。

7 第2回CELAC文化大臣会合開催

21日、当地（於：当国外務省）にて第2回CELAC文化大臣会合が開催された。当国からはバルバリト文化大臣が出席。議長国コスタリカのフォンセカ大臣をはじめ33カ国から代表が出席し、文化遺産保護や貧困撲滅及び人民による自治達成・社会参加のための手段としての文化推進等について話し合われた。

8 在外大使任命

（1）在キューバ・ベネズエラ特命全権大使任命

28日付官報にて、アリ・ロドリゲス前UNASUR事務局長が在キューバ・ベネズエラ特命全権大使として任命された。

（2）13日、ハウア外相は、チャベス前大統領の娘のマリア・ガブリエラ・チャベスが国連代表部次席大使として任命された旨公表した。

（了）